

# しば子先生の 芝生教室



**先生:** 寒さに負けないように芝生が自らの細胞内の有機物をより凍りにくいものに変えて寒さに対する抵抗性を上げて準備していく仕組みはわかったわね・・・

**生徒:** はい、夏の終わりから寒さに対する準備をしていくので秋の正しい施肥は重要です・・・

**先生:** そうね・・・それによって冬場の抵抗性が全く変わってしまうわね・・・そこでの施肥の重要なポイントは、もちろん窒素の効率の良い吸収を考えなければいけないのだけれど、次に重要なのは**“加里”**になるわ・・・芝生の施肥で重要なのは**窒素が最も重要**だけれど、窒素の次に重要なのは加里ね・・・リンではないのよ・・・

**生徒:** なるほど・・・以前加里のところで勉強しました・・・加里は**植物の生育の手助けをしてストレス抵抗性を上げたり水分の吸収の適正な調整を行うのに必要な肥料成分**ですね！

**先生:** よく覚えているわね！・・・冬の寒さの準備だけではなく、夏の暑さや、低刈りや踏圧のストレスなど、生育条件の厳しい環境の時に加里肥料を与えることによって芝生は抵抗性を上げていくのよ・・・

**生徒:** 加里は重要なんですね・・・

**先生:** そうね・・・芝生に取ってはとても重要よ・・・でもそれ以上に窒素施肥を常に必要十分に与えていなければ、加里だけ施肥しても効果はでないわ・・・

**生徒:** やはり基本が大事ですね・・・

**先生:** そうね・・・ところで寒さ対策を説明したから今度は暑さ対策について説明しましょうか？

**生徒:** それも重要です・・・特に寒地型の芝生がどうやったら暑い夏に耐えられるようにできるのか・・・

**先生:** そうね、ベントグリーンの夏場の管理はみんな悩んでいるわね・・・

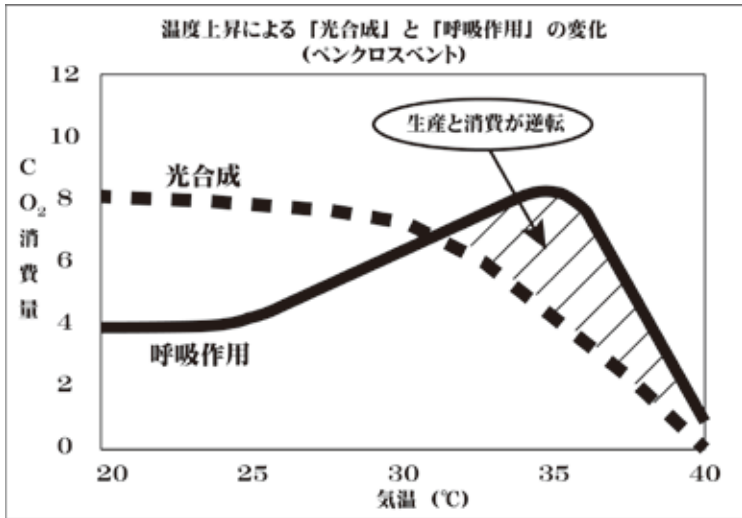
**生徒:** 本当にそうです・・・夏になったらみなさん慌ててます・・・

**先生:** そうね、でもこれも重要なのは夏ではなくその前の**春の段階**で十分準備が出来ているかどうか重要なよ・・・

**生徒:** 冬の準備はその前の秋、

夏の準備もその前の春が重要なんですね・・・

**先生:** そのとおりね・・・夏になって芝が枯れ始めてからではもう手遅れね・・・では、まずどうして寒地型の芝生が夏場の高温に耐えられなくなってしまうのか説明しま



しょう・・・図のグラフを見て、このグラフはベントロスベントの「光合成」と「呼吸作用」の温度による変化を示しているわ・・・

**生徒:** 温度が上がっていくと「光合成」の量が落ちていきますね・・・

**先生:** そうね・・・寒地型の芝生は30°Cを超すと光合成量が落ちてくるわ・・・そして逆に呼吸作用が増えていく・・・この「光合成」が成長エネルギーの『生産』だとすると、「呼吸作用」は成長エネルギーの『消費』だと考えてちょうだい・・・

**生徒:** なるほど30°C以下では『消費』より『生産』の方が多からバランスが取れて元気なんですね・・・

**先生:** そのとおり・・・ところがこのグラフで30°Cを過ぎたあたりでその『生産』と『消費』が逆転してしまう・・・この逆転の状態はエネルギーを『消費』している状態・・・エネルギーというのは光合成で作られた「炭水化物」の事・・・この消費が続けば最後は「夏枯れ」(サマーデクライン)で枯れる事になるわ・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・  
shibako@hugh-enterprise.co.jp